

## 東京リスマチック 株式会社 株式会社 キャドセンター

# 印刷と映像の狭間で、メディアの橋渡しをする Adobe® Creative Suite® 4

ELAライセンス導入によるインフラ整備とコンプライアンスの維持



東京リスマチック 九段センター

東京リスマチックは、都内を中心として多店舗展開するサービスビューローだ。

その東京リスマチックが株式会社キャドセンターをグループ化し、新たにビジュアルコンテンツ事業へと乗り出した。

また、今回の新規事業への参入をきっかけとして、ELAライセンス契約によるCreative Suite 4 Design Premiumの導入を決めている。

次々と新しい展開を見せる東京リスマチックが目指す次なる戦略とは？



東京リスマチックが発行する「LITHMATIC NEWS」  
同社が提供する印刷サービスに関する情報を掲載している



文京区にあるキャドセンター東京本社。ディスプレイでは、同社が手掛けるコミュニケーションツールを実際に体験できる



キャドセンターが開発した「NEXTRAX」。タッチパネルを搭載しているので、3Dのモデルを指だけで自在に操作することができる

都内在住のクリエイターならば、一度は東京リスマチックのサービスビューローを利用したことがあるかもしれない。個人向けのポストカードから業務用のディスプレイ印刷まで、印刷に関する幅広いサービスを提供している。

一方、キャドセンターは、その名が示す通り建築デザインの3Dモデルの制作などを業務としてきた会社だ。現在では、建築デザインのノウハウを活かし、タッチパネルと連動して仮想空間を実現するバーチャルリアリティのシステム開発や独自のアプリケーション開発などを行う。

東京リスマチックでは今回のグループ化に伴い、制作環境をELAライセンス契約によって、Creative Suite 4 Design Premiumに統一する予定だ。

東京リスマチックが目指す、新しい事業の展開とELAライセンスによるソフトウェア導入にはどのようなメリットがあるのか。株式会社東京リスマチック代表取締役社長の鈴木隆一氏と株式会社キャドセンター代表取締役の伊川一成氏のお二人に話を伺った。

#### 総合サービス業への転換

そもそも、東京リスマチックがキャドセンターをグループ化した背景には、どのような意図があったのだろうか。

「東京リスマチックはサービスビューロー事業が主体の会社です。主な顧客は“クリエイター”の方達ですが、昨今ではクリエイターと言ってもその業種はさまざまで、一人のクリエイターが複数のメディアにまたがって創作活動を行うことも珍しくありません。より多くのクリエイターの方達と新しいメディアや創作活動に対して、幅広く対応していけるのではないかと考えています。」と鈴木氏は語る。

Webメディアへの需要が増している現状において、3Dをからめたマルチメディア分野への進出は、意外というよりは必然であったと言えるかもしれない。

従来のビジネスモデルに依存しない営業体制の確立が、今回のグループ化における大きな目的だと筆者は感じた。

#### ELAライセンス導入における同社のメリット

東京リスマチックでは、来るべくマルチメディア事業への本格的な導入に備え、社内の制作環境をCS4 Design Premiumに統一させる予定でいる。また、新規導入に伴い従来のCLPライセンス契約からELAライセンス契約へと移行した。ELAライセンスの導入は、今後同社へどのようなメリットをもたらすのだろうか。

サービスビューローという観点から見た場合、ELAライセンスにおける大きなメリットとして、マルチバージョンのサポートが挙げられる。ELAライセンスでは、マルチバージョンのオプションを設定することで、任意のバージョンが利用可能となる。例えば、Creative Suite Design Standardを対象製品とした場合、構成ソフトであるIllustrator、Photoshop、InDesign、Acrobatのすべてのバージョンを1ライセンスで利用することが可能だ。

「サービスビューローという事業の特色上、常に最新のアウトプットソースに対応している必要があります。しかし、すべてのお客様が常に最新のソフトウェアを利用しているとは限りません。幅広い対応が求められる以上、いつでも対応できる環境を整えておく必要があります。

ELAライセンスのマルチバージョンオプションは、こうした問題を解決する大きな手掛かりとなりました。」

顧客から持ち込まれるさまざまな環境への対応が求められるサービスビューローにとって、マルチバージョンのサポートは、ELAライセンスの大きな魅力のひとつだったと言う。

また、通常のライセンス契約であればオプションとなる“ゴールドサポート”がELAライセンスでは、標準で付与される。ゴールドサポートでは、緊急性の高い問い合わせに対しても24時間体制でサポートが利用可能となる。

「システム開発などの仕事では時間との勝負なので24時間サポートはとても有り難いと思います。」と、伊川氏は、24時間体制のサポートに期待を寄せている。

サービスビューロー事業、マルチメディア事業ともに欠かすことのできない存在であるCreative Suite製品を共通の資産として管理すべくバージョンの統一を図ったわけだ。

#### 会社データ

東京リスマチック株式会社  
東京都荒川区（本社）  
<http://www.lithmatic.co.jp/>

株式会社キャドセンター  
東京都文京区（本社）  
<http://www.cadcenter.co.jp/>

#### チャレンジ

社内の制作環境をCS4 Design Premiumに統一。

#### ソリューション

デジタル映像会社を子会社化。新しい事業への展開を図る。

#### ベネフィット

ELAライセンスの導入により、すべてのバージョンの利用が可能となったことで、顧客サービスの充実化が図れた。

#### Tool Kit

・ Adobe® Creative Suite® 4 Design Premium

## ソフトウェアに対するさまざまなリスクを軽減できました。

東京リスマチック株式会社 代表取締役社長 鈴木隆一氏



インタビューに答える株式会社キャドセンター代表取締役社長の伊川氏。ELAライセンスの24時間サポートサービスに期待を寄せる



キャドセンターの開発風景。今後これら多くのマシンにもCS4 Design Premiumが搭載される予定だ

## ELAライセンスにおける二つの利点

ELAライセンスの取得によって、煩雑なライセンス管理が容易になるだけではなく、企業がコンプライアンスを遵守するという観点から見て、大きなメリットがあるという。

「ライセンス契約で導入する以前は、ライセンスの管理を各個人に任せていました。大丈夫と言われれば、それを信じるしか方法がなかった。しかし、ライセンス契約によってソフトウェア管理に対する様々なリスクを軽減することができるようになりました。」

企業のモラルを問う消費者の目が厳しくなっている昨今では、消費者の信頼を得るために企業が自ら進んで行うコンプライアンスは重要な課題だ。

加えて、ELAライセンスは3年契約であることも大きな特徴だ。棚卸しは1年毎ですむため、CLPに比べて棚卸しの作業が大幅に軽減される。多くの特典が付加されたELAライセンスの導入は、長期的な観点から見て経済的にも有効であることがわかる。

しっかりとしたライセンス管理が容易で、加えてさまざまな特典が付加されたELAライセンスの導入は、同社にとって、ライセンス管理の対策例として、良い勉強になったと言う。

## 紙と映像が生み出す新たな可能性に期待

現在、キャドセンターでは3Dのビジュアルライズを基盤としたマルチメディア事業を展開している。各種の建造物や街並みなどを3DCG化したデータパッケージを販売する一方、独自の3Dシミュレーションシステムの開発などを行っている。

「お客様からの希望には、できるだけお応えしたいと考えています。そういった意味では、将来的に映画やゲームなどのエンターテインメント産業への参入もありえなくはないですね。」と、同社社長の伊川氏は語る。

キャドセンターが持つ最先端の映像技術は、これまで東京リスマチックが取り組んできた印刷業務と相反する関係のようだが、根柢の部分で両者は繋がっていると考える。

1 ソースマルチユースの考え方を突き詰めれば、映像メディアも紙媒体もどちらも欠かすことのできない重要な要素だ。2Dと3Dの事業がコ・ワークすることで、意図しなかった新しい展開が生まれる可能性を秘めている。

新しい創作活動の枠組みを広げる東京リスマチックとキャドセンターの今後に大きな期待が寄せられるところだ。

アドビシステムズ株式会社 〒141-0032 東京都品川区大崎1-11-2ゲートシティ大崎 イーストタワー・www.adobe.com/jp/  
Adobe Systems Incorporated 345 Park Avenue, San Jose, CA 95110-2704 USA・www.adobe.com  
アドビカスタマーインフォメーションセンター Tel.03-5350-0407 受付時間/平日9:30~17:30(土曜・日曜・祝日・弊社指定休日を除く)

Adobe、Adobeロゴ、Adobe Illustrator、Adobe Photoshop、Adobe Creative Suite、Adobe InDesign、Adobe Acrobatは、Adobe Systems Incorporated(アドビシステムズ社)の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。その他すべての商標は、それぞれの権利帰属者の所有物です。

©2009 Adobe Systems Incorporated.All right reserved.

